

平成22年7月20日

全国高等学校総合体育大会自転車競技大会参加の

競技者並びに監督の皆様

技術・審判部会からのお願い

沖縄インターハイが近づいてまいりました。7月に行われました、番組編成会議に起きまして、昨年同様以下のお願いをいたします。また、今大会の実行委員会編成の立場から、ロード競技・トラック競技は、それぞれ別の大会として運営されます。たとえば、トラック競技のIDでは、ロード競技の控え所に入場できない等ありますので、ご理解の上、ご協力よろしくお願ひいたします。なお、競技規則解説も改訂（平成22年版）いたしましたので、ご参照ください。

- 1 ヘルメットについて、シールの貼付の確認。劣化・破損・ひび割れの有無の確認。あごひもの適正位置の確認（ゆるすぎる場合、スタート地点での調整をすることもあります。）。
- 2 サドル・シートピラーの径とフレーム径の不一致やハンドル・ポストの径の不一致（径が違うことにより、競技中ゆるんだ場合、認められない事故になりますので、注意して下さい。）。
- 3 チェン・ピン、ナットの確認（ナットが無くなっている場合が有り、大変危険です。予備を用意しておきましょう。）。
- 4 ギアのゆるみやロック・リングの確認。ホイールによっては、汎用性の低い物もあり他メーカーの物では取り付けられないため、ロック・リングを使用していない競技者が見受けられます。
- 5 バー・エンドの固定の確認。落下しないよう固定して下さい。
- 6 クリートやペダルの確認。締め付けネジやナットの欠落が見受けられます。締め付けの確認（締め付け不良は落下につながります。）もお願いします。
- 7 最近では、最低重量を切る自転車もあります。負荷おもり等の貼り付けでは、検車は通りません。機材にて調整して下さい。
- 8 フレームの経年劣化や落車による傷等から急に壊れる事故がありますので、整備点検・安全確認をお願いします。フレームの適合についてもご確認下さい。

また、身体形態上の理由から、規定外の自転車の使用について、サドルを下げる・ステムを変える等**最大限の努力**をした上でなおかつ規程を越えてしまったときのみ申請をお願い致します。競技者のベストポジションで練習・競技するのではなく、規定の自転車に合わせる様お願い致します。また、申請書を取りあえず出しておこうでは、申請書の意味を持ちません。ご協力よろしくお願ひ致します。

技術・審判部会長 福田 俊彦